令和4年度 奈良県立高取国際高等学校 学校評価総括表（年度末報告）

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクールミッション）	地域から学び、地元や国内のみならず、世界で活躍できる人材の育成
年度重点目標	1 良好な関係を他者と築くために必要なコミュニケーション力を育む
	2 自分事として世界の出来事を捉える想像力を磨く
	3 夢の実現に向けて一歩前に踏み出す行動力を身につける

1 スクール・ポリシー

（スクール・ポリシー）教育方針	入学者の受入に関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。
		1 本校の使命や学力が身についており、夢に向かって一生懸命に努力する生徒
		2 旺盛な知的好奇心と、主体的に行動する姿勢を併せ持つ生徒
		3 人権尊重の精神を持ち、人や自然との共生意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。
		1 生徒の進路実現を図るために必要な科目選択が可能なカリキュラムを編成します。
		2 実社会を生き抜く強い心と人を大切にするあたたかい心を育みます。
		3 規律ある学校生活をとおして、基本的生活習慣と自律的態度を身につけた生徒を育成します。
		4 様々な文化を理解する力や、幅広い視野と豊かな人権感覚、他者尊重と社会貢献の精神を涵養します。
		5 地域から学び、生徒自らが課題を発見し解決する意欲や能力を育むため、探究的な学びを積極的に取り入れます。
		6 学校行事や課外活動、進路対策講座やガイダンス等をとおして視野を広げ、進路を主体的に実現する力を育てます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。
		1 多様な他者と協働するために必要な資質・能力を備え、より良い社会を形成しようとすることができる。
		2 Society5.0の中で、これからも一層変わり続ける世界に対応するために、自ら学び続けることができる。
		3 生涯にわたって自らの健康・安全を維持し、自身のキャリア実現をとおして地域社会や国際社会で活躍できる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標　　自己評価（E）は全教職員に目標の達成度に関するアンケートを実施した結果を4段階、「目標を達成した」「概ね目標を達成した」「課題をいくつか残した」「多くの課題を残した」で標記した。学校関係者評価（F）についても、（E）を参考に同様の標記方法を用いた。

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1.心と身体を子供の成長に合わせて育む	体力の向上	新体力テスト得点の向上（平均58点以上）	新体力テスト得点の向上（平均56点以上）	全国平均値より「長座体前屈」及び「立ち幅跳び」において下回っている。	課題をいくつか残した	方策を支持する	体育実技において、柔軟性・瞬発力・敏捷性を高める運動を取り入れる。
	望ましい生活習慣並びに健康維持の確立	保健室来室者数の減少（年間延べ450回以下）	保健室来室者数の減少（年間延べ480回以下）	コロナ禍の影響もあり、来室者は増加した。不規則な生活習慣もうかがえる。	課題をいくつか残した	方策を支持する	「保健だより」等を通じて、規則正しい生活習慣の励行を一層推進する。
	学校内外における規範意識の向上	「学校のルールを守っている」（90%以上）	「学校のルールを守っている」（85%以上）	頭髪や服装の乱れが増加傾向にある。	多くの課題を残した	方策を支持する	規範意識の醸成のために全教員の共通理解の下、足並みを揃えた指導を徹底する。
2.学ぶ力、考える力、探究する力を育む	ICT教育の推進と質的向上	「授業で効果的にICTを活用されているか」（70%以上）	「授業で効果的にICTを活用されているか」（65%以上）	第1学年を中心に進められ、ハード面が充実しつつある。	概ね目標を達成した	方策を支持する	年度末アンケートにおいて、現状把握と課題確認を実施した結果を受けたい。
	指導と評価の一体化に向けた工夫改善	「ポイントがわかりやすく学ぶ意欲がわく授業か」（80%以上）	「ポイントがわかりやすく学ぶ意欲がわく授業か」（75%以上）	「いつ」「何を」評価するかの明示が不十分である。	概ね目標を達成した	方策を支持する	新たに「「指導と評価の一覧表」を作成し、改善したい。
	探究型の課題解決学習の充実	「自分の考えを発表する等を多く取り入れているか」（90%以上）	「自分の考えを発表する等を多く取り入れているか」（80%以上）	教科・科目によって差がある。	課題をいくつか残した	方策を支持する	機会を多く設定するよう、働きかけを継続したい。
3.働く意欲と働く力を育む	インターンシップ及びキャリアセミナーへの参加	インターンシップ参加生徒の割合（25%以上）	インターンシップ参加生徒の割合（20%以上）	夏期は5事業所に6名参加。冬期は3事業所に2名参加。	多くの課題を残した	方策を支持する	インターンシップ参加者による体験発表会を行うことによって、生徒への周知と魅力発信に努める。
	就職希望者に関する応募前企業見学の充実	希望者各自の応募前企業見学の実施（希望職種3社以上）	希望者各自の応募前企業見学の実施（希望職種2社以上）	希望者5名が延べ10の所を見学。オンライン対応の事業所や見学不可の事業所もあり。	課題をいくつか残した	方策を支持する	同じ職種の事業所を複数社見学する機会を増やしていきたい。
	図書室の利活用を通して様々な分野のキャリア研究	各自の図書室利用回数が週1回以上（前年度より5%UP）	年2回の「朝の読書」を活用し、図書室利用回数を増やす（前年度より3%UP）	11月末現在、利用数は昨年度とほぼ同じである。	課題をいくつか残した	方策を支持する	少し目標が高めだが、図書館行事のPR（広報活動）を一層推進する。
4.地域と協働して活躍する人を育てる	地域との協働事業の充実	飛鳥駅前活性化会議参加及び生徒会役員の参加（年3回以上）	飛鳥駅前活性化会議参加及び生徒会役員の参加（年2回以上）	コロナ禍の影響により、本年度は教員のみの打合せとなった。	課題をいくつか残した	方策を支持する	7月には地域の方とともに駅前除草作業に従事したが、今後も機会を見つけて取り組みを進める。
	国際交流に関する地域並びに協定大学との協働事業拡充	国際交流行事並びに事業開催（年2種別以上）	地域住民を招いての交流事業のみならず、地域へ出向く交流事業も含めて2回以上実施する。	近隣中学と連携締結大学の協力の下、8月のみは実施できた。	概ね目標を達成した	方策を支持する	持続可能な行事とするため、運営スタッフの充実と他の協働事業も推進したい。
	学校運営協議会（CS）の発展的運用	学校運営協議会の内容吟味及び弾力的開催（年5回以上）	学校運営協議会の内容吟味及び弾力的開催（年4回以上）	現在2回の協議会を開催し、様々なご意見や提言を頂いている。	課題をいくつか残した	方策を支持する	年4回開催は目標として掲げ、今後一層の弾力的運用に心がける。
5.地域で個性が輝く仕組みをつくる	購買部の利用方法をとおしての公共マナーの学び	「購買部の利用時にマナーを守れた」（70%以上）	「購買部の利用時にマナーを守れた」（65%以上）	順番を守るなど利用時のマナーについては守ることが出来ている。	課題をいくつか残した	概ね支持する	気付いたマナー違反は、その都度すぐに指導することを教員が共有する。
	地域の特別支援学校及び視覚障害老人福祉施設との交流	特別支援学校との相互訪問（5回以上）及び視覚障害老人福祉施設との夏季訪問	特別支援学校との相互訪問（3回以上）及び視覚障害老人福祉施設とのオンライン交流	コロナ禍により相互訪問は出来ないが、オンライン交流は実施できた。	概ね目標を達成した	方策を支持する	アフターコロナにおいても、様々な取組方策の工夫がより一層必要と思う。
	教育相談体制の充実とスクールカウンセラーとの連携	スクールカウンセラーを交えたケース会議（月1回以上）	スクールカウンセラーを交えたケース会議（月1回以上）	計画通り実施できており、連携は十分図れている。	概ね目標を達成した	方策を支持する	現状を継続するとともに、イレギュラーな事案への対応充足を目指す。

自己評価（E)は、教職員の評価（4点満点）を平均した値をもとに、以下のように区分した。【 「目標を達成した」3.5以上 ／ 「概ね目標を達成した」3.4～3.0 ／ 「課題をいくつか残した」2.9～2.5 ／ 「多くの課題を残した」2.4以下 】

学校関係者評価（F)は自己評価（E)と同様の方法により平均した値をもとに、以下のように区分した。【 「方策を支持する」3.5以上 ／ 「概ね支持する」3.4～3.0 ／ 「更に工夫を求める」2.9～2.5 ／ 「抜本的に改善する」2.4以下 】

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

「高取国際高校に行かせて良かった」と回答した保護者の割合は86.8%。昨年度比において4.5%減少している。特に、学校での様子が保護者に十分に伝わらなかったことが、主な原因と思われる。
来年度に向けての一番の課題は、規範意識の向上にある。全教員が足並みを揃えて一丸となり、ルールを守る意識の醸成に努めていきたい。また、定期的に設定された教員と生徒代表との話し合いの場を活用することによって、より実効性の高いルール作りや規範意識の向上の方策を検討したい。
学校関係者（学校運営協議会委員）からは、改善方策については各項目単独よりも互いに連関し合ったリンクを持たせる方が、より一層改善に向けた取組が有効になるのではないかと提案頂いたので、来年度に生かしていきたい。